

# 2018 年度コラボミュージアム作品づくりコンテスト

## 小学校・中学校部門 アピールシート

平成 31年 1月 18 日

所属名 : 京都府 京都市立桃陽総合支援学校

実践学年組: 小学部

氏名: 山口 香里, 中園 正吾

教科	特別活動
実践期間	平成 30 年 4 月 12 日 ~ 平成 31 年 3 月 19 日
実践タイトル (35 文字以内) “こくぼくん” とみんなの観察日記 ~畑から始まる協働的な学び~	
実践の目的 5つの病院の分教室と本校の児童が、普段直接に会ってやりとりをすることはない。この実践を通して、すべての児童が主体的に活動することで、自ら学ぶ力を育むとともに自分と他者との関係を築き連帯感や交流の楽しみとなるようにする。	
実践のポイント・工夫 児童が、植物の成長記録をコラボノートで共有する中で、楽しみながら友達同士の関係性を作れるように配慮した。 特に、児童自身が考え、主体的に発信できるように、ハンドパペットが、友達視点で言葉がけや動きを見せることで、児童がコメントしやすいように工夫した。	
実践内容 (簡単に) 当校の人気キャラクターである“こくぼくん”, “ここなちゃん”と一緒に、本校の畑で植物を育てる。5つの分教室の(病院に入院している)児童は、感染対策上動植物と接することはできないので、常時観察できるリモートカメラを設置したり、撮影した動画をコラボノートで確認したりできるようにした。 コラボノートで、分教室の児童が畑で育ててみたいお花や野菜を募集。その要望に対して、本校の児童が、土の準備から収穫までを、それぞれの意見を出し合い進めて行った。	

(コラボノートを) 使用してよかった点を教えてください。

指導者や子どもたちが行うものと違い、キャラクターと一緒に日記を作っていくことで、参加意欲も高まり、子ども同士の自発的な言葉や活動を引き出したことは大きい。本校と分教室では環境や実態が違うが、畑やキャラクターという共通項を通して、共にできる活動を考えることや、他の友達の考えを知ることにつながった。なお、これまでもそうであったが、年間を通して無理なく交流することができ、本校と分教室、分教室間の距離感が縮まり、協働的な学習活動ができた。

## 実践記録の概要（単元略案）

全 26 時間

時数	学習活動	先生の指導・支援 および評価	コラボノート の活用
4 月	自己紹介をし，観察日記を開始	みんなの好きな動物や食べ物を確認。“こくぼくん”も一緒に応えることで，さらに参加してもらうようにした。	まずは，付箋にどんどん書いてもらい，使い方を知ってもらう。
2	リクエスト募集（夏編） ・夏に向けて育つものを調べる。	分教室の児童にリモートカメラを知ってもらい，観察の準備ができるようにした。	リクエストを付箋で貼ってもらう。 動画を添付。
5 月	畑作りスタート	リクエストを参考に，種（たね）をまいたり，苗をうえたりする手順を示す。	写真を貼ることを中心に状況を理解してもらう。 動画を添付。
2	観察開始 （ポットから畑の植え替え）	分教室からリモートカメラで見つけたものをコメントしてもらった。	付箋での書き込み。
2	テレビ会議システムで交流	種まきや苗植えを中継して観てもらおう。 本校から分教室のみんなにクイズを行うなど交流を図った。	コメントでの交流と，その中で見つけたものの共有。
6～ 7 月	動物（幼虫）の観察 夏の植物の観察	日記形式になっており，生き物の成長過程を分かりやすく知ってもらう。	写真と動画の添付。
9 月	自然の力を知る （台風）	台風下の植物の様子やみんなへの安否確認コメントで，生きる力や他者への関わりを意識付けた。	みんなへのコメントを付箋で。 台風の様子動画添付。
10～ 11 月	リクエスト募集（冬編） ・冬に向けて育つものを調べる。	分教室のみんなが考えてくれた冬の野菜のたねを本校小学部がたねまきしたり，苗（なえ）をうえたりした。	感想や気づきを付箋で。 動画レポートを添付。
12～ 2 月	冬の植物の観察	種まきや苗植えを中継して観てもらおう。 本校から分教室のみんなにクイズを行うなど交流を図った。 “こくぼくん”が再度自己紹介して，新しい児童への参加を促した。	写真中心に。 感想や気づきを付箋で。 動画添付。
通年	日記へのコメント	“こくぼくん”の気持ちで，日記文章，写真，動画をコラボノートに貼り付け，配信した。	随時書き込まれるコメントによる交流。